

# 会 議 議 事 録 ( 抄 )

会 議 名	第二回 バイオ・環境系 教育課程編成委員会
開 催 日 時	平成 26 年 1 月 23 日 (木) 15 時 30 分～17 時 40 分
会 場	専門学校東京テクニカルカレッジ 地下 1 階 テラホール (第一部)、1001 教室 (第二部)
参 加 者	<p>外部委員：5 名</p> <p>内部委員・学内関係者：5 名</p> <p>&lt;外部委員：4 名&gt; (順不同・敬称略、役職は委員名簿参照)  池上 正人 (NPO 日本バイオ技術教育学会／東北大学名誉教授)  佐々義子 (NPO くらしとバイオプラザ 21)  小野寺 洋子 (株式会社光英科学研究所)  皆川 剛 (水 ing 株式会社)</p> <p>&lt;内部委員：2 名&gt;  大江 宏明 (学校法人小山学園 専門学校東京テクニカルカレッジ バイオテクノロジー科  科長兼カリキュラムリーダー、環境テクノロジー科科長兼カリキュラムリー  ダー、議長、記録)</p> <p>井上綾子 (学校法人小山学園 専門学校東京テクニカルカレッジ 環境テクノロジー科)</p> <p>&lt;学内関係者・第一部参加者：4 名&gt;  佐々木 章 (学校法人小山学園 学園理事 学園本部長)  佐藤 康夫 (同 学園理事 東京工科自動車大学校 校長)  三上 孝明 (同 専門学校東京テクニカルカレッジ 校長、第一部のみ)  高瀬 恵悟 (同 教務部長、第一部司会)</p>
会 議 録	<p>&lt;第一部 全体会 (「情報・Web・ゲーム系教育課程編成委員会」と合同開催) &gt;  開会の辞・スケジュール案内 (高瀬)</p> <p>1. 校長挨拶 (三上)</p> <p>2. Web デザイナー科仕事場カリキュラム発表 (宮川)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・科長挨拶 (宮川)</li> <li>・東中野駅前商店街会会長挨拶 (東田)</li> <li>・学生による発表「ムーンロード商店街 ホームページ制作について」</li> <li>・発表に対する意見 <ul style="list-style-type: none"> <li>- 制作だけでなく、運用面として今後のメンテナンスについても意識した活動を継続してほしい。</li> <li>- 中野区の商店会ホームページとのリンクをお願いします。</li> <li>- web 媒体の運用に留まらず、地域への密着度向上のためにも紙媒体との相互関係を持った発展性を検討して今後も継続した活動を行ってほしい。</li> </ul> </li> </ul> <p>&lt;第二部 系別分科会&gt;</p> <p>1. 議長挨拶 (大江)</p> <p>2. 前回の議事録確認 (大江)</p> <p>3. 意見交換 (まとめ)</p> <p>前回、人材目標と現状のカリキュラムはおおむね整合しているとの結論となったが、カリキュラムフローのみの提示であったため、詳細についての資料提示が要望された。そこで今回、両科の科目シラバスを配布。概要を確認しつつ意見交換を実施。</p> <p>&lt;バイオテクノロジー科&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・前回の議論で、技術英語初学者に対する指導法改善の必要性について議論があったが、現行授業方法の展開案についての意見をいただき、英語授業を①専門技術英単語を覚える、②簡単な化学実験を題材にした英文の翻訳、③この英文の実験を行う。という三部</li> </ul>

構成で実施することでより英語に興味を持たせるように工夫することとした。来年度 2 期以降のバイオ実験英語の授業内において実施検討する。

<環境テクノロジー科>

- ・バイオで要求されている英語などの語学能力に関しては、環境系ではあまり重要視されない。就職先としては水処理や作業環境、住環境、環境管理系が中心であり、現行カリキュラム中でのエンジニアリング系科目の強化が必要であることを確認。エンジニアリングの基礎、環境アセスメント実習などの授業項目再検討。電気技術基礎（仮称）を設定し 2 年次 1 期～2 期にかけて設定運用する。

<共通・その他>

- ・基礎科目（物理、化学、計算などの基礎学力の強化）が必要であり、来年度まず課外授業として各々の基礎講座を検討、実施することとなった。

これまで例えば計算に関しては、実習などの授業時間内で実施していたが、十分に対応できなかった。時間外の別授業として、時間をかけてくりかえし指導することで効果を発揮させる。あわせて文章作成能力の強化が必須であり、短時間に所定文字数の文章を書くことを繰り返すことにより、文章作成に対する苦手意識を解消させることを狙う。HR や就職指導などの特別授業中で作文を行うことを検討することとした。

- ・特許や知財に関しては社会情報の授業の中での説明を、拡大する形で実施する。
- ・専門学校卒の技術者(テクニシャン)として要請されるのは、分析系の実験を行うものとしての基礎がきちんと在ること。基礎が叩き込まれている人が大事なのであって、ものの読み方、記録の作り方などの基礎力=実験室のマナーがしっかりとできる人の育成が必要。
- ・高度化（習得度の向上）のためにはやはり就学年数の延長が必要か？  
二年間の区切りのメリットも強みにすべきである。⇒ 二年間を基本としそれに+（1 年、2 年）して行くカリキュラム構成案について次回の会議までに検討。

4. 次回日程について（大江）

- ・平成 26 年 7 月 18 日（金）15 時 30 分～17 時 30 分

5. 閉式の辞（大江）

17：40 終了

以上